

# 強い網

2013年4月号

新版 第57号

編集:

駿台甲府高等学校

駿台甲府中学校

駿台甲府小学校

## やさしさを広める意義

高等学校校長 酒井 徹 哉

駿台甲府は本年も、小中高すべてにおいて、多くの新入生を迎えることができました。これも皆様方の本校の教育へのご理解の賜物として感謝しております。生徒諸君の学校生活が充実するためには、何より学校と保護者の皆様の連携が不可欠です。どうか学校運営に関しまして、ご支援をいただきたくお願い申し上げます。

## 仙崎を訪れて

この春休みに、山口県北部の長門市仙崎を訪れました。大正末から昭和初期にかけての童謡詩人、金子みすゞ生誕の地です。みすゞの作品は、東日本大震災の後、ACC公共広告機構のCMで流された「こだまでしょうか」という作品で一躍有名になりました。みすゞは、詩作を始めたのが二十歳のころ、そして二六歳で非業の死を遂げています。わずか七年の間に五十二編もの作品を残していますが、その後世間からは忘れ去られてしまいます。彼女の作品が再び世に紹介されたのが一九八四年のことです。その少し後、私は「大漁」という詩を偶然ラジオで聞きます。

朝焼小焼だ／大漁だ。

大羽鰯の／大漁だ。

浜はまつりの／ようだけれど

海の中では／何万の

鰯のとむらい／するだろう。

この詩との出会いは強烈でした。前段で鰯(イワシ)の大量に喜ぶ人々の様子を語り、

後段では突然の場面と視点の転換、まさに不意打ちを食らわされます。一編の詩でこれほど衝撃を受けたのは初めてでした。念願かなって訪れた町は、日本海に突き出た小さな半島の漁村でした。立派な記念館を見学した後、自転車で行く街中を見て回ると、至る所の商店や民家、寺院の玄関先にみすゞの詩が書かれた札がぶら下がっています。同じ詩もいくつもあり、たぶんそれぞれが好きなのを掲げているのでしょう。町中の人々がみすゞに対して親しみを持っていることを実感しました。

「おさかな」という詩を紹介します。

海の魚はかわいそう。

牛は牧場で飼われてる、

鯉もお池で焚を貰う。

けれども海のお魚は、

なんにも世話にならないし、

いたずら一つしないのに、

こうして私に食べられる。

ほんとに魚はかわいそう。

この二つの詩に共通するのは何かと考えると、それは「やさしさ」ではないでしょうか。可愛がる、愛おしむというやさしさではなく、相手の立場に立つ思いやりだと思えます。自分(人間)の立場だけで物を見てはいけないという「やさしさ」です。私たち人間は生きるために、他の生命を絶たなければなりません。そのことはみすゞも否定しないし、当たり前のこととして受け入れています。しかし、そこに人間としての原罪のようなものを感じ、食べられる側の視点・立場を忘れてはいけないという気持ちの表れを感じます。

余談ですが、実は数年前私は「おさかな」を大胆にも地理の定期試験に出したことがあります。どういう質問をしたかというと、『この詩から漁業の産業としての特徴』を答えさせるものでした。答えはなんでしょうか。最後に記しておきます。(※)

## WBCでの出来事

私は野球オンチなため、野球中継を見る習慣はないのですが、その私が野球に関するニュースで感激したことが最近ありました。今年、日本で行われたWBC(野球の世界大会第一ラウンド、三月八日の日本対台湾戦での出来事です。延長一〇回、四時間三七分にも及ぶ試合に勝利し、歓喜溢れる日本チームがベンチに引き揚げた頃、台湾の監督・選手がマウンドで円陣を組み、全員が観客席に向けて深々と一礼をしました。このシーンは日本の地上波では放送されていませんので、後日報道されるまで多くの日本人は知りませんでした。

実は、この試合の二日前、日本のある若者が『東日本大震災に多大な義捐金を送ってくれた台湾に今度のWBCの試合の際に感謝しよう』という内容のツイートをしました。これが瞬く間に広がり、賛同の輪が形成されました。台湾からの義捐金は二〇〇億円以上、どの国よりも桁違いに多い金額です。救援隊も最も早く、翌日には日本に来てくれました。そういったことに感謝しようということでした。試合当日「謝辞台湾」「感謝贈贈」というプラカードがスタンドのあちこちに掲げられました。

台湾の選手たちは、ツイッターの動きを知りません。彼らは、試合会場でスクリーンに映されたプラカードを見て、初めて状況を理解します。監督は『勝負よりも価値あるものを見せつけられた。』そして、感謝の気持ちを表わしたかったと述べています。

いじめの道具に使われたり、過激な発言が横行したりと、世間で問題にされることが多いツイッターですが、今回のようにや

さしさを伝え、広げていくこともできるのだということを感じました。

## 国際関係にまでも

歴史を変える原動力は何かといえば、それは多数の民衆の意思と力です。これが極めてラジカルな形で現れれば革命になります。革命とまでいかななくても、民衆の意思は、政権交代・権力移譲を実現させます。しかし、民衆の意思を力にするためには、有効な情報伝達手段が必要になります。

一九八〇年代末の東欧の民主化が急速に波及した要因に、衛星放送があげられます。これまでマスコミを統制して、不利益な情報を流そうとしなかった独裁政権にとって、衛星放送の電波は防ぎようがありませんでした。ベルリンの壁が壊される映像は、瞬く間に東欧諸国にも伝えられ、民主化の動きを奮起させました。

現在、悪化の一途をたどっている、日中関係、日韓関係ですが、これらを打開していく突破口となるのは、両国の国民の共通理解です。両国の関係を修復しようという両国民の意思を集約する必要があります。ツイッターやミクシー、ブログなどは極めて有効な手段となります。

これらのツールで人の悪口や、問題視されているヘイトスピーチといった、ネガティブな情報発信ではなく、両国関係を改善しようという意思をどんどん発信し、人々のやさしさの輪を集約することが、関係改善につながっていくような気がします。

掲載した二編の詩は『金子みすゞ童謡全集』(J-LA出版局)によるもので、「金子みすゞ著作保護会」の許諾を得ています。

※答えは「略奪的性格または略奪型産業」です。農業や工業が資源を増殖させるのに対して、狩猟・採集、漁業、鉱業は資源を一方的に捕獲・採取するからです。

# 高校より

副校長 上原雅志

今年の入学式、塩部校舎は、久しぶりに三百名を超える新入生を迎えることができた。様々な地域から本校に入学した生徒達に、心から祝福の言葉を贈りたいと思います。海外を含め初めて山梨に来て寮生活に入る生徒、電車通学を始めた生徒、自転車道で長い道のりを通学する生徒、新しい制服に身を包み、誰もがそれぞれの新鮮な思いで高校生活をスタートさせたことと思います。職員室にも多くの新人の先生方を迎え、今年の四月は例年と一味違う活気を感じます。

十一日、授業もスタートしました。初めての教室で、生徒達の素直な自己紹介に、胸が躍ります。すべての生徒達が、希望に満ちて学び、感受性豊かに成長することができるよう願ひながら、生徒達の夢の実現に向けて、仕事に打ち込みたいと思います。よろしくお願ひします。

## ハードな日々を過ごしてほしい

副校長 斉藤豊美

川の水の流れの如く、いつもの風景で新年度の一学期がスタートしました。しかし、本当はその中身はまるで違う、そこにいる生徒は、新しい顔ぶれの一年生であり、それぞれ成長し進級した新二年・新三年生です。これから平成二五年度という新しい歴史を刻んでいく頼もしい生徒たちです。

彼らの心の中は、春の芽吹きと同じように、希望に燃え目標に向けて突き進むという意欲に溢れています。この時期には、少々の困難があっても、立ち向かっていく精神力があります。そして、この前向きな気持ちがあれば、これだけ持続するだけで、大きな成長を遂げることができると決まっています。

明確な目標を持つ人もいれば、目標が漠然としている人もいます。それでも、とにかく思ったことには果敢にチャレンジし、『ハードな日々を過ごしてほしい』のです。努力すればしただけ身に付いていく年代なのです。勉強にもスポーツにも趣味にも、悪いことでない限りは「うんうんうなつて」努力するという苦しい時を過ご

してほしいのです。そうすれば一年後には、思った以上の自分に出会えるはず。この一年もまた、生徒の成長につながる持続力を何としても維持するために、保護者の皆様と一緒に、様々なことを考え工夫を凝らしていきます。強制や叱咤ではなく、生徒が自然に努力を続けられるような施策で、どうかよろしくお願ひします。

## 意識するということ

美術デザイン科 学科長 岡田昭夫

芸大の教授の日比野克彦さんだったと思います。ようこそ先輩というNHKの番組で、小学生にリンゴをデッサンさせていました。一通り描かせた後、作品とリンゴを集めました。講評でもするのかと思いきや、彼は『では、もう一度今自分の描いたリンゴを見つけて下さい』というのです。皆さんは自分の描いたリンゴが見分けれられますか。はじめからそう言われていれば、よく似ているとはいえリンゴを見つければ、そう難しいことはありません。でもただリンゴを描いただけでは、なかなか難しい。

よく観察しながら、特徴を捉えながらと言っても、それが顔とかでなくリンゴであるためにどこか観念的に見ている部分が多くなってしまう、実はよく見えていない。何にでもいえることだと思ひます。生徒たちには、ぜひしっかりと意識して充実した一年を過ごしてほしいと思ひます。

## 異次元の経験

教務主任 斉藤雅夫

歴史の瞬間に立ち会うことは、人を大きく成長させる。それまでの世界が崩壊し、全く新しい世界が現れる。ペルリンの壁の崩壊や五百年、千年に一度の大地震、大津波、原発事故、…二〇年以上続いたデフレ、首相と日銀の金融政策が変わっただけで、これだけ劇的に変わるものか？ バブルのワクワク感があふれ始めている。このまま日本の景気は良くなっていくのか。いつまで？ またバブル崩壊や国債暴落、国家破綻がいつか起こってしまうのか。これらどんな経験をされるのだろうか。これから新入生をはじめ在校生の諸君も多感な高

校時代に、ぜひ様々なチャレンジ・経験を積んでほしい。そして呪縛から解放されること。いつまでも子供じやないんだ。」

## 生徒指導部主任 半田博志

昨年に引き続き生徒指導主任になりました半田です。今年で五年目になります。生徒は一つずつ学年が上がった訳ですから新しいスタートになります。一日のスタートは、朝起きることから始まり朝食、身支度をして登校になります。ご子息は余裕を持って朝の時間を過ごしていますでしょうか。学校でも早めの登校を促しています。ご家庭でも協力をお願いします。学校でも指導していますが、生徒の身なり、特に女子のスカート丈、男子のズボンの履き方についても指導願ひたいと存じます。

## 生徒指導部主任 中込範彦

昨年度はセンター試験の国語、数学一が例年よりも難化し平均点が大幅に低くなる厳しい状況の中で、東京大学理科三類をはじめ国立大学、私立大学に多くの合格者を出すことができました。もちろん生徒の努力もありますが、保護者の皆様のご理解とご協力があつたからこそ素晴らしい結果を残すことができたのだと思ひます。今年度も昨年にも勝るとも劣らない結果を出せるようにサポートしていくつもりでおりますので、今後とも変わらぬご理解とご協力をお願いいたします。

## 入学広報部主任 筒井揚介

新入生諸君、入学おめでとう。新入生保護者のみなさまにも、お祝い申し上げます。駿高で学ぶ三年間を実り多きものとし、「納得受験・納得進学」を達成できるように、祈念いたします。

入学広報は、中学生に駿高で学ぶ魅力を実感し、多くの中学生に駿高の門をたたいてもらえるように案内していく部署です。今年度一年間、駿高の魅力を大いに広めるべく努めてまいりますので、保護者のみなさまにはご理解・ご協力のほどよろしくお願ひいたします。六月末には第一回学

校説明会を予定しております。ご近所の適齢期の中学生に、ご案内いただけると幸いです。

## 三学年主任 高橋英一

三学年の初めは、我々教員はいつも、生徒全員の進路達成に対する重い責任を感じ大きな緊張感を覚えるわけですが、同時に、大きな挑戦を目の前に、わくわくするような心地よい緊張感も感じます。もちろん生徒の皆さんも同じはず。昔では、「灰色の受験生活」という言葉もありましたが、違いますが。本当に自分のやりたいことを達成するために、一つ一つ全力で進んでいく充実感と緊張感、一つ一つ知識を、技術を身につけていく楽しさをじっくり味わいながら、今までの人生の中で一番充実した、一番エキサイティングな一年にしていくことができると思ひます。一緒にがんばってやっていきましょう。

## 二学年主任 後藤和利

新学年を迎えました。中高六年間の最後の二年間を迎えることになりました。どうしても受験に目が向きがちですが、受験だけを目標にした学習ではいけません。視点をより遠くに持って自己研鑽し続けるべきだと考えます。勉強しない大学生を夢見ていてはならないのです。近年、ベトナムなどの振興国の発展がめざましい裏で、日本では就職難が続いています。日本の大学生は「いかに企業に好かれるか」という一点に全力を尽くしていますが、その間に世界中の学生は必死に語学や技術を学んでいます。これが一〇年・二〇年と蓄積していった国際社会で君たちは生きていくのですから。

## 学校通信「強い網」について

東京大学医学部教授の北村聖氏が医学部の学生の教育について次のように述べました。「我々は、東大医学部生には、より多くの獲物を持たせて旅立たせるのではなく、より強い網（あみ）を持たせて旅立たせることに決めた。」本校生徒にも、将来「強い網を備えた人物」となって、世界で活躍して欲しいとの願ひを込めて、前校長の山口博伸先生が学校通信にこの名称を冠したことに由来します。

## 中学校より

中学校校長 河崎哲郎

ご入学ご進級おめでとうございます。中学校長の河崎哲郎です。どうぞよろしくお願ひ致します。子供の成長は早いもので、あつという間に月日は過ぎてしまいます。しかし、そう感じているのは親や教員である大人であつて、当の生徒は、恐らくその大半が日々様々な新たなことに遭遇し、泣いて笑つて、時に深く感動し時に悩み苦しみながら、それなりのストレスを抱えて毎日をご過ごしています。今年もそんな生徒たちをしつかりサポートして行きたいと思ひます。

### 聞き上手になる

「聞く」ということは一見簡単なことのようにですが、実はとても難しいことです。私は常々聞き上手になりたいと思つていますが、これがなかなか難しい。例えば家族と家で話をしています。相手が何か話し始めます。ふん、ふん、とうわの空で聞いていると、「聞いているの？」と言われてしまいます。かといつて一生懸命聞いていると、ついつい自分の意見を言いたくなり、話の途中で意見すると、「もういい。」と言われてしまいます。

昨年ベストセラーになった阿川佐和子さんの「聞く力」という本は読まれた方も多いことと思います。私も遅ればせながら最近読んでみたのですが、「二一 相づちの極意」のところは臨床心理学者の河合隼雄氏にインタビューした時の話が出てきます。多方面に活躍されているのですが、もともと臨床心理学の専門家ですから、人の話を

聞くプロとも言えるでしょう。河合氏は患者には「一切アドバイスをしない。」「ただ聞くこと。それが相手の心を聞くカギ。」と言われたということです。カウンセラーは一切アドバイスはせず話を聞くだけ、という話は他からも聞いたことがあります。ただ聞くことが相手の心を聞くカギ、というのは、一瞬そうかな、と首をかしげるかもしれません。けれども、逆の立場、話を聞いてもらう立場になったことを考えると、そのことがよくわかります。自分が悩みを話す時に、相手にどうしたらいいと思う、とまず相談をもちかけます。しかし、たとえ相手が何も言ってくれなかったとしても自分が話すことで気持ちがすっきりしたり、頭の中が整理できて問題解決に向かう、ということとはよくあることです。逆にそこである程度の意見されるとかえつて気持ちが乱れたり、頭の中が混乱してしまうものです。人は他人に話すことで自分の気持ちや考えを整理することができるものなのです。頭の中でその事柄を整理しなければ人に話すことができないからです。

ちょうど思春期に入り精神的に難しい年頃である中学生に相対する者として聞き上手になることは何よりも生徒たちの心を開くために大切だと思うのです。ご家庭におかれても子供に相対する時に是非とも聞き上手になって頂きたいと思ひます。ついつい子供が何か言う前にこちらが口火を切つてしまいがちですが、そこで少し我慢して是非とも聞き上手になつて下さい。

「聞く」という行為は消極的なイメージがありますが、決してそんなことはないと思ひます。「話し上手は聞き上手。」という言葉もあります。話の上手な人というのはやはり相手の話をよく聞いていてそれ的に

確に反応して話を展開していくものです。一方的に自分の話を押し付ける人を話し上手とは言わないと思ひます。上手に聞くことができないければ上手に話すことはできないはず。そう考えると「聞く」という行為はとても能動的な行為だと言えるでしょう。

私は英語の教員ですが、そのことを言うとき、「英語がしゃべれますか？」と尋ねられることがあります。この質問の意味は、英語を話す人と会話ができるか、という意味だと思ひます。しかし、しゃべれる、しゃべれない、というのは正しい質問ではありません。「英語がわかりますか？」というのが正しい質問でしょう。例えば英語で原稿を作り、立派なスピーチができたとしても、それは英語の会話能力があることとは別のことです。いわゆる「しゃべれる」ためには、「聞く」ことができればなりません。相手の言っていることが理解できなければいくらこちらから英語をまくし立てたところで、英語をしゃべっていることにはならないのです。英語においてもやはり「聞く」ことは大切です。

ということであるいろいろな意味において「聞く」ということは内容の深い行為だといふ気がします。《聞き上手》になれるように私もさらに日々精進したいと思つています。

### 追悼

#### マーガレット・サッチャー

先日イギリスの元首相マーガレット・サッチャー氏が亡くなりました。八七歳だったそうです。彼女の功績については新聞の

論評に任せるとしましょう。彼女の功績の是非はともかくも、二〇世紀の偉大な政治家の一人であることを否定する人はいないでしょう。彼女はイギリスのグランサムという、ニュートンの出身地でもある人口三万人余の小都市で生まれ、大学入学までを過ごします。大学では化学を学びますが、政治の道に入ったのは、父親の影響が大きいうこと。彼女の父アルフレッドは食料雑貨商を営んでいましたが、地方の政治にも関わっていました。彼女の家庭では①self-help (自助自立)、②charitable work (慈善活動)、③personal truthfulness (正直一徹)が重んじられていたということです。「鉄の女」と呼ばれることになった基盤は彼女のそんな家庭環境の中で作られたものなのだとと言えるでしょう。

つまり、一人の人間の人格形成を考えた時に、やはり家庭環境というのはとても大きな部分を占めます。そしてその環境というのはどういう環境が良いとか悪いという優劣はありません。サッチャー氏の場合には①の精神から、他者にもそれを求めて強硬とも言える政治姿勢に繋がったのかもしれない。②の精神から政治の道を志してある意味慈善的な仕事に人生を捧げたと言えるのでしよう。また、③からは信念を曲げず、他と迎合しない強い姿勢が生まれたのかもしれない。

そんな意味においてお子さんが過ごされるご家庭での環境を整えてあげて頂きたいと強く思ひます。それは人為的に作り上げるものではなく、自然にそれぞれのご家庭で出来上がっているものですが、そのそれぞれのご家庭の雰囲気や常態に大事にして頂くことがとても大切だと思つています。

## 小学校より

### 「愛は勝つ」

校長 石川 博

ビートたけしが、「愛は勝つよな」とつぶやくテレビCMがあります。「愛」が勝つたということは、「何か」が負けたんですね。いったい何が負けたのでしょうか。CMでは、ジャン・レノが「前は権力大好きおじさんだったくせに」と受けます。「権力」が「愛」に負けたのだ、と言いたいようです。

このコマースシャルは、トヨタクラウンのハイブリッド車のためのもので、これまでクラウンと言えば、「いつかはクラウン」のフレーズでもわかるように、成功した人——権力を得た人——が乗るイメージでした。燃費なんて問題にしない。それを愛えたかった。ハイブリッド車は、所有者にも、地球にとつても「愛」だといふのでしよう。

たけしは喜んでいようには見えません。自分は、勝った側（愛）ではなく、負けた側（権力）だと思っているのでしょうか。来し方を振り返り、「権力」の限界を感じている風情です。車のCMといえば、経費や機能性を「明るく」売り込むものが多く、こんなのは珍しい。ピンクのクラウンが霞むくらい、たけしの表情が印象的です。

さて、「愛」ではなく「正義は勝つ」と言う場合、負けるのは「悪」です。善（正義）と悪が対立する構図は単純でわかりやすい。水戸黄門もウルトラマンも「正義は勝つ」話です。いかにも悪徳商人や見た目も恐ろしげな怪獣をやっつける話は見ている爽快です。しかし、世の中で対立が起こった場合、どちらかが明確な善、どちらかが明確

な悪というケースはむしろ希でしょう。

水戸黄門が印籠をかざすと悪者どもは平伏します。印籠に描かれた葵の御紋が最高の権力をあらわしています。悪者どもでさえ従わざるを得ないほどの「力」、それが徳川將軍の御威光でしょう。実際の江戸時代がどうだったのかは別の問題です。水戸黄門のような話が、多くの人々の支持を得ている、という事実を見ておきたい。「正義」と「権力」は強く結びついているのです。とすれば、「愛」と「正義」も対立するのでしょうか。普段は両立します。しかし時として相反する場面もある、と思います。そのとき、どちらが勝つのか、あるいはどちらを取るべきか、という問題です。

小学生にこれをあてはめてみます。「愛」とは、友だちや家族、周囲の人々に優しく接して仲良くすること、ですね。「正義」とは、ルールを守り、親や先生の言うことをよく聞くこと、となるでしょう。普段は矛盾しませんから問題はありません。しかし、たとえば、嘘をついても友だちを守りたい、という場面はあり得ますよね。

「正義」や「権力」に従うことは楽です。しかし、国の命令に反してユダヤ人にビザを発給する外交官の行為——愛——には覚悟が必要で、同様に、子どもたちが、自分の気持ち、友だちの状況を考え、「覚悟」の上で、あえて「愛」を選んだら・・・その子を褒めたい。駿台甲府の「愛情教育」とはそういうこと——CMに戻れば、「権力より愛だね」——でもあるのです。

新年度を迎え、保護者の皆様には、いつものご理解とご支援をお願いします。この「強い網」、4頁までが小中高共通、挟み込まれた一枚（5〜6頁）が各校独自の特集です（今月は6頁のみ小学校独自）。

### はじめのいっぽ

一学年主任 有野眞紀子

ようこそ、駿台甲府小学校へ！

桜の花びらの舞う中、二期生七十七名が入学しました。まだ少し大きな制服と制帽：それでも胸を張り、「小学生になったよ」と誇らしげな子どもたち。幼さは残りますが、駿小生として、いっばいお勉強しようという意欲に溢れています。

一年生は、国語の教科書でまず「はる」という詩を読みます。みんなで声を出して読みます。算数では「ななまづくり」という学習から始まります。生活科では「ともだちをつくらう」という単元からです。どれも心が温かくなるような内容です。一年生の子ども達にとっては、これら様々な勉強も集団での生活も、全てが、これから始まる駿台での小中高十二年間の学校生活の「はじめのいっぽ」です。丁寧に丁寧に基本を身に付けさせてあげたいと思います。「学ぶこと」の楽しさを教えたいと思います。

入学式の日、大きな声でお返事ができました。始業式の日、出席番号を覚えてきさんと並ぶことができました。次の日には、「おはよう」の文字が書きました。一日ごとできることが増えていく子どもたち。この無限の可能性を、保護者の皆さまと共に、しっかりと伸ばしていきたいと思えます。

「学校楽しいね！」を合言葉に一年間がんばりましょうと最初の学年集会で子ども達と確認しました。そういう毎日になるように、そして、キラキラ輝いている子ども達に負けないように、私たち教師も、心も知識も磨きながら、一緒に歩んでいきたいと思えます。

一年間よろしくお願ひいたします。

### 「愛」心

二学年主任 嶋田 顕

教室は二階から三階へと移り、窓から見える景色はより高く、広いものへと変わりました。視界が広がり、様々なものが見えてくると、興味や関心も広がり、加えて知識や思考も深くなります。きつと、二年生となった子どもたちの視界には、入学したばかりの一年生の姿が映ることだと思えます。一年間の間に大きく成長した自分に自信を持って、二年生をスタートしてほしいと思えます。

さて、昨年は学年目標として、何事も真剣にとりかかろうと『真心』という言葉が掲げました。今年も好きな言葉になってほしいという願いを込めて『愛心』という言葉が掲げられます。物事には得手・不得手、好き・嫌いが付いて回ります。勉強もそう。スポーツもそう。そして、仲間を作る上でもです。得意・苦手という意識は、やがて嫌いという言葉に変わります。嫌いになると、物事はなかなか前に進まなくなり、イヤなところばかり目に映るでしょうし、避けるようになるでしょう。チャレンジングスピリットも減退し、重苦しい世界が自分の周りを包んでいきます。ですが、好きになるとどうでしょう。あつという間に、自分を囲む周囲の世界が明るく・楽しいものに見えてくるはずなんです。好きになることは自分の世界を広げ、豊かにするために必要な「はじめの一步」です。仲間のいいところ・真似したいところを一つでも多く見つけ、仲間のことを大好きになり、たくさん仲間が作れる二年生を目指したいと思えます。

今年度も保護者の皆さまのご理解とご協力の程、よろしくお願ひ致します。

# 高校より

## 祝・入学特集

【普通科】

ご入学おめでとうございます。入学式当日は、強風に伴い、受付設置や写真撮影等でご迷惑をおかけしまして、大変申し訳ございませんでした。また、皆様のご理解とご協力、大変感謝しております。ありがとうございます。さて、式後、または学年集会の中でお話ししました通り、ぜひ、この学校を、われわれ教職員を信じてください。意欲をもって、ついてきてください。そして、手を取り合い、最良の学校生活を築いていきましょう。

一学年 主任 羽田昌樹

ご入学おめでとうございます。まだまだ新しい生活に慣れていないと思いますが、「チャレンジングスピリット」と「愛情教育」を忘れずに一生懸命努力してください。何事もスタートが肝心です。生活のリズムを確立し、早く高校生としての自覚を持つことを期待しています。高校生は大人です。頑張ってください。

一年A組 担任 八田政久

ご入学おめでとうございます。大学で古代ローマ史を勉強していたのですが、一人でも多くの生徒諸君が、古代ローマに関わる著名なことから「Rome wasn't built in a day」(ローマは一日にして成らず)じっくりと努力を積み重ねて初めて成功できる)のような気持ちを持って成功していく事を期待しています。

一年B組 担任 平岡真人

三四期生の皆さん、保護者の皆様、高校入学おめでとうございます。縁あって学年の仲間として歩んでいくこととなりました。よろしくお願います。三年間の高校生生活

活は心身ともに成長できる時期です。私も二〇年前を振り返ってみますと、迷いも多かったですがそれ以上に得るものがあり、充実した高校生生活だったと記憶しています。これからクラス担任として、また国語科担当として一生懸命頑張っていきたいと思います。よろしくお願います。

一年C組 担任・副主任 酒井竜次

入学したての頃、生徒諸君はそれぞれが良い緊張感をもって生活していました。高校生活に慣れてきたはじめた現在はどうでしょうか。GWを前にして、もう一度入学時に心に誓ったことを確認して下さい。日々の学習や部活動に対してどれくらい真剣に向き合っているでしょうか。友達とは良い距離感でつきあっていますか。

一年D組 担任 中村幸史

今年、教員生活三〇年という節目を迎えました。まだまだ老け込む年ではないと一念発起し、まずは顧問を引き受けるバスケットで審判としてコートを走ってみました。(まだ走れる)三四期生が高校生という多感な時期に多様な価値観を身につけ、様々な刺激を受け入れ成長を遂げる、その手助けをしたいと考えています。よろしくお願います。(今年こそ公式戦で勝ちます！)

一年E組 担任 中村慎介

新年度もよろしくお願います。春休みには他校の先生方と一緒に「良い学級」を創るためにはどうしたらいいかというテーマで自主的な勉強会をしています。これから勉強会で仕入れたことを皆さんに投げかけながら楽しくメリハリのあるまともな学級を創りたいと気持ち新たに発進しました。新しい環境は戸惑いや不安もありますが新しいことを始める絶好の機会です！一緒に頑張りましょう。

一年F組 担任 石井隆広

新しい学年との素敵な出会いがあつてから、しばらくたちました。多少の緊張感がありながらも一人ひとり違った個性を持つていて、毎日が刺激的です。新学年のみんなも、昨年度から一緒にやってきたみんなも、私にとっては特別な生徒たちです。全員の持つ才能を引き出せるよう、日々の時間を大切にしたいと思えます。よろしくお願いたします。

一年G組 担任 前田泰明

久しぶりに東館で担任をやらせていただくことになりました。ホームルーム精鋭四五名は駿台一の大家族です。H組は言うまでもなくフレッシュな一年生のみならず、英語とそれにまつわる森羅万象を楽しく勉強したいと思っています。書物をむさぼり、頭をいじめ、夢を欲張って、いっしょに「強い網」を作っていきます。

一年H組 担任 山下敏伸

春は新しい出発の時です。めまぐるしいスピードで変化していく諸情勢に、戸惑いがちな毎日を過ごしています。世の中全体の見渡しても、新しく変わっていくような、昔に逆戻りしそうな動きもあつて、色々考えさせられることの多いこの頃です。こういう時代だからこそ、過去に歴史を学び、現在と未来を考えていくことが大切だと考えています。

一年年副担任 原正人

ご入学おめでとうございます。義務教育を終えた、この節目の時をどのような気持ちで迎えているでしょうか。節目の時は自身を大きく変えるチャンスです。新しいことにチャレンジするとき、新たなエネルギーがわいてくるのが人間のすばらしいところ。若さのエネルギーは無限。「挑戦」の気持ちを続ける駿台生になることを望んでいます。

一年年副担任 岩堀大介

ご入学おめでとうございます。高校生活が始まって数週間経ちましたが、リズムは掴めてきたでしょうか？高校入学の今が、自分の良いところを伸ばし、悪いところを改めるいいチャンスです。今の新鮮な気持ちを継続しながら、いろいろとチャレンジする高校生活が送れるといいですね。一緒に頑張ってください。

一年年副担任 名取景子

高校に異動して一年目の今年度は、一年(三四期生)と同じような真つ白な気持ちで、一日一日を新鮮に過ごしていきたいと思えます。覚えることも数多くあり、忙しい日々となりますが、「一生勉強 一生青春」の精神で共に成長していきます。宜しくお願致します。

一年年副担任 池田健太郎

## 【美術デザイン科】

初めまして、美術デザイン科で一年A組の担任をしております。四條朋恵です。

私は、子どもたちが一生続けていきたいと思えるものを、見つけるためのお手伝いをしたいと考えます。そのために、子どもたちと真摯に向き合い、状況を見極めながら、適切な方法や考え方を提示できるようにしたいです。担任として精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願います。

一年年担任 四條朋恵

美術デザイン科一年A組の副担任の鶴田和也と申します。まだわからないことが多いので、様々なことに挑戦し、生徒と共に成長したいと考えています。担任の四條先生と協力し、二、三年生のクラスとの連携を大事にしながら学校生活を一緒に楽しみたいと思えます。宜しくお願致します。

一年副担任 鶴田和也

# 中学校より

～新年度挨拶～

## 中学校副校長 斎藤昌一

桜は、春を象徴する花として日本人になじみ深く、古くから愛されています。そして、学校では、春の新学期を迎え、青空の下での満開の桜は「新たな志」のきっかけとなります。「志」というのは、心の向かってゆく動きをいうのです。わかりやすくいうと、めざすところということです。

たとえば、マラソン大会で走るとき苦しさや先になり走るのを止めてしまうとゴール後に後悔が残ります。走っているときあと少し走ろう。あの橋のところまでと決めて走るといつの間にか辛さが抜け走り続け、ゴールしたとき爽やかな汗と笑顔で友達と話ができてもよい気持ちになります。

物事を行うのに、かたい「志」のある者は、どんな困難にぶつかっても成し遂げるということなのです。その志を立てる時が、中学生の皆さんの時期であり、今このときは再び巡ってはきません。

今こそ、一念発起、将来への「志」を立てて、大人への第一歩を踏み出そうではありませんか。立志―「志」を立てていきましよう。

## 統括主任 内山晶夫

「わたしは、今までに一度も失敗したことがない。電球が光らないという発見を今まで二万回したのだ。」「わたしは、決して失望などしない。どんな失敗も新たな一歩となるからだ。」これらは彼の有名な発明王トーマス・エジソンの言葉です。ノーベル賞受賞の山中伸弥教授も、「九回失敗しないとなかなか一回の成功はやってこない。」「回り道をしたからこそ今の自分があるんじゃないか」と述べています。正に

失敗とはチャレンジしないこと！失敗を恐れずチャレンジし続けることの大切さを痛感させられます。

本校の校是である『チャレンジング・スピリット』には、そのような精神を有した人材を育成・輩出したいと強い思いが込められています。そして、それぞれの歩幅で何事にも果敢にチャレンジしていこうとする子供たちをサポートするために、様々なチャレンジ精神を育む場を提供すること。それらのチャレンジが着実に実を結ぶための教育環境を整えること。そんな本校独自の教育活動を広く世間に伝えていくことを心掛けながら、この一年間の教育活動に取り組んでいきたいと考えています。本年もぜひよろしくお願い致します。

## 生徒指導主任 益田耕治

入学式・始業式を終え、生徒達は、何となく気持ちが高ぶってくる時期だと思えます。一年生は、これから始まる勉強や部活動、先生や友達との出会いなどで不安と期待が混じりあつた高揚感に包まれていることでしょう。一方、二・三年生は、「慣れ」から来る生活の乱れがでてくる一方で、それぞれが今年に賭ける抱負が実現できるかどうか気になっていることでしょう。それぞれの実現に向けて全力を傾けてほしいとともに生徒指導部としては、「安心且つ安全な学校」を目指し、日々の生徒達との関わりを大切にしていききたいと思えます。また、保護者の皆様におかれましては、「目」を離さず「手」を離していく親子関係のあり方を構築していただけたらと思います。なお、本校の生徒指導重点の一つ、「自立・自律」の観点から朝、登校する時から下校まで「自分のことは自分でやる」という指導を実践しております。今年一年ご理解と

ご協力をお願いします。

## 一学年主任 永山一宏

昨年度創立二〇周年を迎えた駿台甲府中学校ですが、これまで様々な人材を輩出し、その人材は駿台甲府高校の核となってきました。今年度は駿台甲府小学校四期生六七名を加え、新たに駿中二期生一五〇名を迎えることとなりました。これからこの一五〇名とともに駿中二年目の新しい歴史を作って行きたいと思えます。

生徒諸君にあつては常に希望を胸に未来を見据え、たゆまぬ努力の末に輝かしい未来を勝ち取ることでできる生徒に育ってほしいと思えます。これからの六年間は決して楽しいだけのものではないでしょう。けれど、自分を信じ、友を尊重し、学校を愛することができれば、六年後大きな充足感を持って未来に羽ばたくことができるはずです。そして、生徒諸君の頑張りももちろんですが、全ての保護者の方々のご理解とご協力のもと、我々学年団も全力を尽くして素晴らしい学年となることを目指したいと思えます。どうかよろしくお願ひします。

## 二学年主任 柿澤喜英

二〇期生中学校二年目の生活が始まりました。生徒たちは、一年前とはだいぶ違つて、周囲の風景を見て季節の移ろいを感じながらゆつたりと登下校しているようです。

「これからは心と身体も大きく成長していく、大人への土台作りの時期。だからこそ、まず、環境に合った、自分の基本的な生活習慣を確立し、体力・学力をつけ、周囲への配慮・考え方・判断ができ、自分の言葉で話せ、自ら実行できるように努めてほしい。」第一タームを実現・完結するの

が、今年度の目標です。

生徒から決して目を離すことなく、生徒の成長に日々接することに喜びを感じ、その元気に負けないように、学年団も奮闘します。今年度の学年団は、山口・新田の両先生が他学年に移られ、新任の牧先生を迎えました。改めて、我々も、One for All、All For One、「一人はみんなのために、みんなは一人のために。」で頑張りますので、ご支援、ご協力をお願いいたします。

## 三学年主任 小高淳

今年度、一九期生の学年主任を内山先生から引き継ぎ、現在、これまでの担任としての生活との違いに戸惑いながら毎日過ごしているところです。学年通信にも書かせてもらいましたが、中高一貫校の中三、第二タームの一年目ということで、今年度は中学校より先を意識させていこうと考えています。これまでも授業で高校範囲に入り、通常の中三とは違うということで、何となくは意識していた生徒もいたと思いますが、今年度は、大学進学や職業選択の情報誌を各教室に置くなどして、より強く先を意識させていこうと考えています。たくさん生徒がなるべく具体的な目標をしっかりと持って毎日過ごしていけば、一九期の集団全体がモチベーションを高く保ちながら第二ターム一年目を終えることができるはずです。そして、スムーズに第二ターム二年目の高校一年に繋がっていきたいと思えます。

私自身、今年で駿中九年目になり、三年生を担当するのも三回目になりました。これまでの中三の担任として経験したことを活かしながら、生徒たちと真正面から向き合っていきたいと思えます。一年間よろしくお願ひします。

## 「一人一人の成長」

三学年主任 小西 静穂

十期生六十一名は、三年生に進級しました。「一つ大人になるために」正しく・やさしく・たくましく」を学年テーマに、三年生の学校生活をスタートしました。

クラス替えもあり、新しい仲間との生活は新鮮です。新しい教科の理科や社会の勉強も、とても楽しみにしている子どもたちです。

「一つ大人になるために」どんな生活が心がけたいのか。始業式後に行った学年集会では、テーマに沿って話をしました。「正しく」生活するためには、自分の行動を自分で決める。自分の行動に責任を持つことです。「やさしく」生活するためには、優しい心で友だちに接することです。助けられたり助けたり、良い関係を築くことです。「たくましく」生活するためには、苦しさから逃げず、自分なりに一生懸命頑張ることです。子どもたちは、教師の話の一つ一つ真剣に聞いていました。この一年間で、さらに体も心も大きく成長していくことを期待しています。

毎日の授業への取り組みも大切にします。基礎基本の学習重視は変わりませんが、低学年の時よりも、応用的な問題にも少しずつ取り組みます。日々の学習にしっかりと取り組めるよう、教師一同の気持ちも一つにし、子どもたち一人ひとりをあたたかい気持ちで見守ります。そして、楽しく充実した一年間になるよう頑張ります。

最後になりますが、本年度も保護者の皆様のご支援とご協力をいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

## 仲間と共に成長を

四学年主任 山下 潤

駿台甲府小学校は小中高一貫教育を実践しているため、全てにおいて小学校の範囲だけでなく、中学、高校を見据えた教育や指導を実施しているのが強みであります。

その事をしっかりと踏まえ、どんな力が必要か、そのためにどのような方法が適切かを見極めた学年経営をして次年度に繋げます。また、縦の連携だけでなく、クラスや児童、教員、保護者の方々との横の連携を図りながら学年経営がなされる事も駿台の強みです。縦と横の連携が密であるほど、学校と家庭で子どもたちに確かな教育を行うことができます。

さて、四学年は高学年への準備期間という位置付けを前面に出し、「仲間」をテーマに学校生活のあらゆる場面で大切さを意識させ、学習面では基礎基本の徹底を図りつつ、自ら学ぼうとする姿勢の土台を作っていきます。また、指示されてから動くのではなく、仲間と協力や相談をして行動できる集団を目指します。学年開きの中で、勉強も運動も大切だけれど、一番大切なのは仲間であるという話をしました。日々の学校生活が充実し、明日も学校に行きたいと言える環境を作ります。「ビッグジャンプ」よりも「スモールステップ」で確実に成長できるように学年団で結束し、児童と共に私たち教職員も成長できる一年にしています。私自身、四学年を担当するのは初めてですが、高学年での経験をいかしつつ、全力で頑張る所存です。

最後になりますが、本年度も保護者の皆様の温かいご支援とご協力の程、宜しくお願ひします。

## 人として大切な肥しを

五学年主任 奥村 貴子

自分の生かし方を見つけることのできた人は、基本的にチャレンジすることの楽しさを知っていて、チャレンジング・スピリットも豊かであると感ずることがあります。人を惹きつける、魅力ある人の多くがこのタイプなのではないでしょうか。

子どもは自分自身の中に成長する力を持っています。その力をいかに引き出していくのが私たち大人の重要な役目になります。また、段階をふんだ環境づくりも大切になってきます。心も体も大きくなっている、この小学校六年間を通して、集団生活の決まりや仲間への思いやりを学び、勉強や多くの活動を通じて、どんなことにもまっすぐに立ち向かえる、チャレンジング・スピリット豊かな人間に育てたいというのが私たちの願いです。

五学年、八期生は、今年も一本の学年テーマを柱に高学年のスタートを切り始めています。テーマは「しん」。その都度必要な漢字をあてて学年としての指針を示していくかと思っています。四学年で築き上げてきた土台に、人として大切な蓄えとなる肥しをたくさん蓄積していく、そんな学年にしていきたいです。成長することを喜びと感じる、チャレンジすることを楽しいと感じる、人のために活動したいと願う、自分の能力を高めようと努力をする、そんな子ども本来の動力の先頭にたてるよう、五学年教員一同、新たな気持ちで学年をひっぱりついでいこうと引き締めております。

八期生（児童＋親＋教員）全員が、自分を成長させるために新たなチャレンジをしていくよう、この一年、頑張りたいと思います。どうぞ、よろしくお願ひします。

## 最高学年のスタート

六学年主任 田中愛子

いよいよ小学校生活最後の年、六年生のスタートです。七期生七十名、「駿小の核となり、下級生の良い手本にならなければ！」と、その責任を自覚し、意欲に燃えています。早速、子どもたちは、児童会執行部を中心に、「一年生を迎える会や「児童総会」にむけて、積極的にアイディアを出し合い、休み時間も返上して、準備に励んでいます。活気ある駿小児童会をリードすべく、学年がまた一丸となり、集団力が高まっていくことを期待しているところです。

今年は、学年通信のタイトルに「Do your best」を掲げました。一人一人が最善を尽くし、仲間と共に励まし合い、鍛え合い、小学校生活の締めくくりとして最高の思い出を創っていくこと、学年開きの中で皆、決意を固めました。全力で取り組んだ仲間たちには味わえない本物の喜び、本物の達成感を着実に積み重ね、生活力・学力、共にしっかりと基礎を固めて、駿中進学を見据えた一年間にしていきます。

一年後、どんな自分でありたいか（どんな自分となって、駿小を卒業するのか）という理想を描くこと。そのために今、何をすべきなのか計画をしっかりと立て、具体的な実践目標を決めること。スタートに当たり一人一人真剣に考えました。教室に掲示した目標が、目標のまま飾りになってしまわぬよう、自らの決意を一日の始めと終わりに確かめ、自分への問いかけをしてほしいと思います。

「どんな場面でも自分の力を出し切ること」「悔いを残さないこと」を合言葉にし、日々、完全燃焼！で頑張ります。今年度も宜しくお願ひ致します。

## 新任・異動の先生方

〜ついでに挨拶〜

### 【新任編】

初めまして、今年度から駿台甲府高等学校美術デザイン科に勤務することになりました。四條朋恵と申します。

私は、学校生活の中で、「これだったらずっと楽しみながら追究できるな」という事を何かひとつ、子どもに見つけてほしいと思っています。そのために、こどもと深く関わり合い、状況を見極めながら、適切な方法や考え方を提示できるような教師になりたいと考えています。右も左もわからないので、皆さんにご迷惑をおかけすることを精一杯活かして頑張っていこうと思ひますので、これからよろしくお願ひします。

### 四條朋恵（美術デザイン科 美術）

美術デザイン科の保健体育を担当することになりました。鶴田和也と申します。本校の普通科を二五期生として卒業しました。駿台で過ごした三年間はとても有意義な時間でした。駿台に戻ってくることで、とても幸せに感じています。お世話になった駿台に少しでも恩返しができるよう努力し、他の先生方に早く追いつけるように、教員としての一年目を大切にします。保健体育の授業では、生徒の安全面に気を配り、体を動かすことの楽しさを伝え、けじめのある授業にしたいと思ひます。宜しくお願い致します。

### 鶴田和也（美術デザイン科 保健体育）

この度、駿台甲府学園に社会科教師とし

て赴任しました。専攻は地理学（経済地理）です。大学院時代の修士論文は「東京の神田地域の地域コミュニティの衰退と再生」です。

社会科は暗記科目と言われます。確かに、たくさん覚えることは大切です。しかし残念ながら人間の記憶には限界があります。そこで大事なのは、考えたり、原因や結果などと事象をつなぎ合わせたりして、より深く理解することです。

私は、生徒のより深い理解を支援するため、修養と研鑽に励む決意です。ご指導ご鞭撻よろしくお願ひ致します。

### 牧和弘（中学校 地歴公民科）

今年度より駿台甲府小学校に勤務することになりました。中橋美紗と申します。駿台甲府中学校・高校の卒業生です。お世話になった駿台に、教師として戻ってくることで、大変嬉しく思っております。駿台での六年間は勉強、部活動や友人など非常に充実したものでした。小学校からこのような駿台の環境で育つ子どもたちと関わっていくことに喜びを感じ、児童と共に成長していけたらと考えております。駿台で培った「チャレンジング・スピリット」の精神を児童たちにも伝えていきたいと思っております。よろしくお願ひ致します。

### 中橋美紗（小学校）

### 【異動編】

駿台甲府中学校から異動となりました。酒井竜次は、昨年度まで中学校に一〇年間勤務し、このたび一〇年ぶりに高校生の担任を務めることとなりました。高校の様子も一〇年前とは様変わりしている部分がありますが、周囲の足を引っ張ることがないよ

う、精いっぱい頑張りますのでよろしくお願ひします。

### 酒井竜次（普通科 国語）

中学校から、久しぶりに高校へ戻ってきました。人生の中で将来のことを本格的に考えるのが高校生だと思います。高校生の間には、自分が将来に渡って何をしたいのか、悩まなければならぬ時期が出てくるはず。その時に、授業・部活・委員会などの学校活動を通じて皆さんの生徒に解決の糸口になるような話を語れたらと考えています。緊張感を持って、一生懸命に頑張りますので、よろしくお願ひします。

### 浅川直哉（普通科 理科）

この度、駿台甲府中学校から異動して来ました。中学校での経験を生かして、日々学ぶ姿勢を忘れずに前進して行きたいと考えております。駿高生は納得受験をキーワードに本当に一生懸命勉強している生徒が多く立派だと思っております。ありきたりな言葉ですが、「学び続ける者だけが成功をおさめる」ものです。駿高生にも刺激を受けつつ、新たな塩部校舎での教員生活を始めます。

生徒の皆さん、保護者の皆様改めてよろしくお願ひします。クラスは一年F組を担任します。今年度のキーワードは、「心を揃える」です。

### 石井隆広（普通科 数学）

今年度より中学から普通科へ異動してまいりました。池田健太郎です。私自身の高校生活を振り返ってみると、高校時代は三年間があつたという間の出来事として過ぎていきました。しかしその時間は非常に濃

く、有意義なものであつたと思ひます。私が高校時代を人生の宝と思えるのも、共に過ごした友人のおかげです。同じ志を持ち、同じ目標に向かって切磋琢磨した仲間はいつしかかけがえのない存在になりました。生徒にも信念を持ち、高い志を持って高校生活を送ってほしいと望んでいます。宜しくお願い致します。

### 池田健太郎（普通科 地歴公民科）

三月に高校三年生を送り出し、四月より中学校に異動となりました。高校三年生から中学一年生の担任ということで、六歳も年齢差があり少々不安もありましたが、生徒達はとても素直で明るく、授業に臨む態度も真剣で、とてもやりがいを感じています。また、生徒達のために、連日早朝から夜遅くまで頑張つていらつしやる中学校の先生方の姿にもとても励まされています。慣れるまではもうしばらくかかりそうですが、精一杯頑張りますのでよろしくお願ひいたします。

### 中村圭世（中学校 理科）

六年間勤めた駿高から、今年度初めて中へ異動になりました。入職当時の新鮮な気持ちを出しつつ、元気な新入生たちと充実した毎日を送っております。また数学の教員としましては、アタマの柔らかい中学生のうちに高校で必要とされる数学力の素地を鍛える機会を与えてもらい嬉しく思ひます。中学生のうちに良い（生活、学習、倫理の）規範を自分のものとした人とそうでない人では、その後の人生に埋めがたい差がつくものだと多くの先輩方が示しています。駿中生の未来が明るくなるよう尽力したいと思ひます。

### 野倉英明（中学校 数学科）